

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	常葉大学
設置者名	学校法人常葉大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tokoha.ac.jp/disclosure
収支計算書又は損益計算書	https://www.tokoha.ac.jp/disclosure
財産目録	https://www.tokoha.ac.jp/disclosure
事業報告書	https://www.tokoha.ac.jp/disclosure
監事による監査報告(書)	https://www.tokoha.ac.jp/disclosure

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和5年度事業計画書 対象年度:令和5年度)
公表方法: ホームページにおいて公表 https://www.tokoha.ac.jp/disclosure
中長期計画(名称:学校法人常葉大学 第2期中期計画 対象年度:令和3年度~令和7年度)
公表方法: ホームページにおいて公表 https://www.tokoha.ac.jp/disclosure

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/self-check/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/ce_university/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 教育学部 初等教育課程
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/ ）
（概要） 教育学部は、教育という視点から社会に貢献できる、幅広い教養、豊かな人間性、実践的な指導力を兼ね備えた人材の育成と、その育成の基盤となる研究の推進を目的とする。 初等教育課程は、学校教育の基礎としての小学校教育を中心に、幼稚園教育又は中・高等学校教育をも担うことのできる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/education/admission-policy/ ）
（概要） 知識・理解 教科等の指導で必要になる基本的な事項を身につけるとともに、児童生徒の実態に合わせて授業教育活動を構成するための理論の理解を深めることができる。 思考・判断 学術的に裏打ちされた的確な判断、批判的思考力や論理的な表現力を持ち、教育現場においては対話型教育で培った力に基づいて協同協働的に結論を導き出すことができる。 関心・意欲 教育の意義と育てたい児童生徒像を追究し続け、学校教育で必要な実践的指導力とは何かを考え続けることができる。また、その追究のために自律的に学び続けることができる。 態度 規範意識を高く持ち、社会の一員としての役割と責任を果たし、地域に貢献する心を持ち続けるとともに、教科・教育に関する知識や技術および指導力の向上を自らに常に課すことができる。 技能・表現 「少人数教育」と「指導教員制」で培われた教科教育授業および児童生徒指導の実践力を駆使して、子どもの興味や関心を引き出す授業教育活動・教材づくり（地域教材等）ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/education/admission-policy/ ）
（概要） ディプロマポリシーを達成できるように、基礎・理論的な科目を 1・2 年次、発展・実践的な科目を 3・4 年次に配置している。また、各科目群は以下の考えで配置している。 ● 教科教育科目群、教職専門科目群（発展的科目）は、教科および教職の専門知識と指導技術を基盤とした教授法を段階的に学びながら、抱負なアイデアを生み出せるように配置する。 ● 教科教育科目群・教職専門科目群（実践的科目）は、教育の意義を認知し、柔軟に教育を行う思考を育み、論理的表現力や、批判的思考によって共同協働作業を円滑に行うことができるように配置する。 ● 専攻科目群は、学術的思考に裏打ちされた一般的・包括的内容を発展的内容へと昇華させ、探究心と豊かな人間力が育つように配置する。 ● 教職専門科目群（基礎・理論的科目）は、教師力の素地を確立し、高い規範意識で総合

<p>的な判断力を持って行動ができるように配置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実習科目群・特別支援科目群は、対話力を磨きながら、他者を受け入れ、自身の考えを精練し、技能を駆使した表現活動を通して、子ども・家庭・地域に貢献できる柔軟なコミュニケーションができるように配置する。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/education/admission-policy/ ）</p>
<p>（概要） 教育学部は、幅広い教養、豊かな人間性、実践的な指導力を兼ね備え、教育という視点から社会に貢献したいという意欲を持つ学生を求めます。 初等教育課程では、具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 基礎的文章表現の理解や構築能力、及び基礎的数理能力や推理能力を持った者 ● 専門的知識や広い教養を獲得しうる全般的な基礎学力と意欲的な姿勢を持った者 ● 教師となる夢を持ち、実現していく情熱と根気を兼ね備えた者 ● 人と人との融和を図り、広い視野にたって人間関係を構築できる者 ● 自ら考え、自ら行動し、己を客観的に評価できる資質を持った者

<p>学部等名 教育学部 生涯学習学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/ ）</p>
<p>（概要） 教育学部は、教育という視点から社会に貢献できる、幅広い教養、豊かな人間性、実践的な指導力を兼ね備えた人材の育成と、その育成の基盤となる研究の推進を目的とする。 生涯学習学科は、社会教育をはじめとする生涯学習社会の様々な教育分野で活躍できる人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/education/admission-policy/ ）</p>
<p>（概要）</p> <p>知識・理解 【生涯学習専攻】 社会教育の専門的職員や生涯学習支援者としての専門的知識を理解している。また、地域課題を解決するための問題解決能力を身につけている。 【生涯スポーツ専攻】 生涯にわたって健康の保持増進の知識を理解するとともに、身体の諸器官の機能、体力の向上および安全な環境づくりなどの知識を獲得している。</p> <p>思考・判断 【生涯学習専攻】 学校、家庭、地域社会の連携を推進するためのコーディネーターとしての能力、それぞれの教育力を高めるためのファシリテーターとしての能力を身につけている。 【生涯スポーツ専攻】 生涯を通じて運動に親しむ資質や能力を養うために、スポーツの合理的な実践法、指導者の観察法、健康づくりなど豊かな思考力と創造性を養い、自己課題に応じた実践の工夫ができる。</p> <p>関心・意欲 【生涯学習専攻】 生涯学習社会の理念を理解し、その実現への高い使命感を持つことができる。また、生涯学習領域における実践的関心のみならず研究的関心を幅広く持つことができる。</p>

<p>【生涯スポーツ専攻】 生涯スポーツに関わる教養、幅広い知識・技能を体系的かつ総合的に身につけるために、コミュニケーション能力を培い、常に高い意欲と柔軟な感性を持って、学問を追究することができる。</p> <p>態度</p> <p>【生涯学習専攻】 生涯学習社会の実現に向けて、「新しい公共」の形成のための社会貢献活動等を自ら行うことができる。さらに、その活動のための自己研鑽を生涯にわたり行うことができる。</p> <p>【生涯スポーツ専攻】 「スポーツ」「健康」の探究に自主的・主体的に取り組むとともに、専門領域と他領域の融合から、幅広い知識を活用する実践力を身につけるようにする。</p> <p>技能・表現</p> <p>【生涯学習専攻】 地域における生涯学習振興計画・社会教育計画の立案およびその評価を行うことができる。あわせて、個別の学習プログラムにかかわる専門的な企画、運営および評価を行うことができる。</p> <p>【生涯スポーツ専攻】 健康保持増進のための生活習慣や身体運動に重点を置きながら、生涯スポーツに活かせる理論と実践の架橋から、実践知を獲得することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/education/admission-policy/）</p> <p>（概要）</p> <p>【生涯学習専攻】 専攻科目は、教養教育科目および学科共通科目で生涯学習支援にかかわる基礎的な資質・能力を身につけた上で、社会教育主事、図書館司書、博物館学芸員など、社会教育の専門的職員や生涯学習支援者として広く活躍する人材養成のための科目を体系的に配置する。その際、人間関係能力、実践能力および研究能力の習得を目指すため、理論面に加え、演習、実習、実技、特別研究および課題研究等の科目を効果的に配置する。</p> <p>【生涯スポーツ専攻】 人々が生涯にわたり豊かな生活を送るために、生涯学習に関する理論・実践を通じ、生涯スポーツに関わる広い知識・技能を体系的かつ総合的に身につけるために、演習・実践科目を適切に配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/education/admission-policy/）</p> <p>（概要）</p> <p>生涯学習学科では、具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生涯学習の支援・推進に関わる専門家・指導者となることへの熱意を持っている者 ● 専門的知識や教養を習得するための基礎的な学力と高い学習意欲を持っている者 ● 強い責任感を有し、社会人としてのルールを尊重し、より良い人間関係を築くことに努める者 ● 学業に励むとともに、進んで文化・スポーツ活動、ボランティア活動などに参加する者
<p>学部等名 教育学部 心理教育学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/）</p>

<p>(概要)</p> <p>教育学部は、教育という視点から社会に貢献できる、幅広い教養、豊かな人間性、実践的な指導力を兼ね備えた人材の育成と、その育成の基盤となる研究の推進を目的とする。</p> <p>心理教育学科は、人間のこころの領域を科学的に把握してコミュニケーションでき、社会の様々な分野で活躍できる人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/education/admission-policy/）</p>
<p>(概要)</p> <p>知識・理解 心理学全般にわたる基礎的知識を土台に、臨床心理学および発達臨床心理学的支援に関する専門知識や技能を理解し、備えている。</p> <p>思考・判断 社会の中にある様々な物事を、主観に流されることなく客観的な視点からとらえるとともに多面的・批判的に考察することができる。</p> <p>関心・意欲 人間の心の動きやあらゆる営みに関心を持ち、その理解や支援のスキルを社会に役立てようとする強い意欲を持つことができる。</p> <p>態度 自分自身を含む人間の心や行動について客観的によく理解しようとすることができる。さらに、他者を受容的・共感的に理解しようとすることができる。</p> <p>技能・表現 情報を的確に収集・評価できる分析力、対人援助の実践力、発達理解の応用力を習得し、地域や社会のために活用することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/education/admission-policy/）</p>
<p>(概要)</p> <p>まず、心理学（特別支援を含む）を広範に学ぶとともに、概論的知識からより専門的な各論へと展開される学習の系統性を重視して科目を配置する。次に、実習や実験等の体験を重視した授業を多く取り入れ、科学的な分析力と援助のための適切なスキルの定着を目指して科目を配置する。最後に、体験的な学習や研究等における学生同士や教員とのコミュニケーションの中から、専門的な知識や技能だけでなく、人間を理解しようとする態度を身につけることを目指して科目を配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/education/admission-policy/）</p>
<p>(概要)</p> <p>心理教育学科では、具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人の心や行動の「働き」や「違い」に関心や疑問を持ち、それを理解し、疑問を解明するためには努力を厭わず、主体的に学習し、探究しようという意欲と向上心、知的好奇心を持っている者 ● 特に「発達」や「カウンセリング」について探究し、教育現場（特別支援教育を含む）やカウンセリング等の領域において、他者の成長や支援に関わりたいという熱意を持った者
<p>学部等名 外国語学部 英米語学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/）</p>

<p>(概要)</p> <p>外国語学部は、実践的な外国語運用能力を身に付け、真のコミュニケーション能力を持った人材の育成と、その基盤となる研究の推進を目的とする。</p> <p>英米語学科は、英語運用能力の獲得及び英米の文化、歴史、社会などの広い知識を修得させ、社会の様々な分野で活躍できる人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/language/admission-policy/ ）</p>
<p>(概要)</p> <p>知識・理解 英語や英語圏の文化・歴史・社会に関する専門的な知識を修得している。</p> <p>思考・判断 英語や英語圏文化の知を生かして、問題を発見し、解決に結びつけることができる。</p> <p>関心・意欲 英語圏の文化的・社会的な問題に広く関心を持つことができる。</p> <p>態度 国際化する地域社会に貢献する姿勢を身に付け、地域社会のニーズに応えることができる。</p> <p>技能・表現 実践的な英語運用能力を身につけ、それを活用できる。 国際化する地域社会で働く上での実務的なスキルを身につけ、それを活用できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/language/admission-policy/ ）</p>
<p>(概要)</p> <p>英語の実践的運用能力を高め、英語圏の歴史、文化、社会に関する幅広い知識を深め、国際化する地域社会で活躍するための問題解決能力を育むため、以下のような教育課程を編成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 英語の実践的運用能力を効果的に養成するために、4 技能の基礎から応用まで扱う英語コミュニケーション科目を配置している。また、国際化する地域社会で活躍できる高度で実務的な英語能力を育成するために、選抜された学生の科目である AEP (Advanced English Program) を配置する。 ● 国際化する地域社会への貢献を念頭に、英語圏の歴史、文化、社会に関する知識を深めるため、学生それぞれの問題意識にしたがって履修できる講義科目を段階的に配置する。 ● 英語圏の歴史、文化、社会に関する知識を深め、国際化する地域社会の問題解決能力と創造的な思考力を養うために、3 年次から「専門セミナー」の科目群を設け、そこに主体性を持って他者と協働する科目（「専門セミナーⅠ」および「専門セミナーⅡ」）を配置する。 ● 4 年間の学びの集大成として、卒業論文作成を通して問題解決力や創造的な思考力を身につける卒業研究を 4 年次の「専門セミナーⅡ」の成果物として作成させる。 ● 異文化理解の深化と英語力の向上を目的とする「海外英語研修」と英語教職履修者の英語力と英語教授に関わる専門的な知識を海外の大学で身につける「英語教育海外研修」の 2 つを専攻科目に配置する。 ● 中学校、高等学校の一種免許状（英語）の取得のための科目を配置する。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/language/admission-policy/ ）</p>

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 英語や英語圏の文化・歴史・社会に関心を持ち、その知識を活かして問題発見や解決に挑戦し、自らの考えを発信する意欲を持つ者 ● 主体性を持って国際化する地域社会に貢献する意欲を持ち、多様な人々と協働しながら地域社会のニーズにも応えようとする者 ● 実践的な英語運用能力および国際化する地域社会で働く上での実務的なスキルを身につけるため、着実に学習が継続できる者

<p>学部等名 外国語学部 グローバルコミュニケーション学科</p> <p>教育研究上の目的 (公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/)</p>

<p>(概要)</p> <p>外国語学部は、実践的な外国語運用能力を身に付け、真のコミュニケーション能力を持った人材の育成と、その基盤となる研究の推進を目的とする。</p> <p>グローバルコミュニケーション学科は、国際語としての英語のみならずその他の言語の運用能力とグローバルな視野を持ち、社会の様々な分野で活躍できる人材を育成する。</p>

<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/language/admission-policy/)</p>

<p>(概要)</p> <p>知識・理解 複数の地域の言語および文化・歴史・社会に関する専門的な知識を身につけている。</p> <p>思考・判断 複数の地域の言語や文化の知を生かして、問題を発見し、解決に結びつけることができる。</p> <p>関心・意欲 複数の地域の文化的・社会的な問題に広く関心を持つことができる。</p> <p>態度 国際化する地域社会に寄与する姿勢を身に付け、地域社会のニーズに応えることができる。</p> <p>技能・表現 複数の言語の実践的な運用能力を身につけ、それを活用できる。 国際化する地域社会で働く上で必要な社会人基礎力や実務的なスキルを身につけ、それを活用できる。</p>

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/language/admission-policy/)</p>

<p>(概要)</p> <p>複数の言語の実践的運用能力を高め、それらの言語が使用されている地域の歴史、文化、社会に関する幅広い知識を深め、国際化する地域社会で活躍するための問題解決能力を育むため、そして、その土台となる社会人基礎力や実務的スキルを獲得するため、以下のような教育課程を編成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 東アジアやスペイン・ラテンアメリカの文化・社会に関する基礎的な知識を得て、1年次後期以降に学習する言語を学生自らが選択するために、1年次前期に4地域の「文化入門」科目を必修で配置する。 ● 言語能力指標の国際的基準である CEFR に準拠したレベルゲージを使用し、各言語共通の学習到達度指標を設定した上で、1年次後期から4年次まで、スペイン語、ブラジル・ポルトガル語、中国語、韓国語の中から少なくとも2言語を修得するための外国語コミュニケーション科目を配置する。 ● 国際語としての英語のコミュニケーション能力を高めるため、1年次から4年次まで英会話科目を配置する。 ● 複数の地域の文化・社会・歴史等に関する知識を深めるため、1年次から4年次まで

<p>に「Area Studies」「Cross-cultural Studies」の科目群を配置し、さらに、3年次の主題講 義や4年次の特別研究を開設し、問題解決力の涵養に結びつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● グループワークを通し他者と協調しながら働くことのできる社会人基礎力を身につけるため、1年次から3年次まで「協働研究セミナー」科目を配置し、1・2年次は必修とする。 ● 国際化する地域社会で活躍する力を育むため、1年次後期から4年次にかけてGC学科生に特化した「キャリア開発科目」を配置する。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/language/admission-policy/ ）</p>

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 東アジアやスペイン・ラテンアメリカの言語・文化・歴史・社会に関心を持ち、その知識を活かして問題発見や解決に挑戦し、自らの考えを発信する意欲を持つ者 ● 多様な人々と協働しながら社会に貢献するため、積極的かつ主体的に自らの社会人基礎力を向上させようとする者 ● スペイン語、ブラジル・ポルトガル語、中国語、韓国語の中から少なくとも2言語の習得に著実に取り組み、学習が継続できる者 ● 国際化する地域社会で活躍するためにグローバルな知識と社会人に必要な実務的技能の獲得に努力する者

<p>学部等名 造形学部 造形学科</p>

<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/ ）</p>

<p>(概要)</p> <p>造形学部は、多様なアートやデザインの分野で高度な知識と技術が求められる時代において多方面にわたり活躍できる人材の育成と、その育成の基盤となる研究の推進を目的とする。</p>

<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/art/admission-policy/ ）</p>

<p>(概要)</p> <p>知識・理解 アートやデザインの基礎及び専門知識について言語化できるとともに、作品制作や企画、設計、教育等に活かすことができる。</p> <p>思考・判断 広い視野と柔軟な発想、批評的な考え方をもとにして、芸術性と社会性の両面で問題の発見と解決の提案ができる。</p> <p>関心・意欲 アートやデザインの世界的な動向に関心を持つ一方、地域社会における芸術や産業の現実を直視し、文化や産業の発展に関心を持つことができる。</p> <p>態度 人と芸術の関わりや創造的活動の持つ深い精神性を理解するとともに、多様な人々と協働して他者や社会にそれらの価値を普及、還元するための適切な行動ができる。</p> <p>技能・表現 アートやデザインの専門的な知識・技能を、作品制作や研究、社会実践活動に活用することができる。</p>

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/art/admission-policy/ ）</p>

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学部共通科目、学科専攻科目、大学が独自に設定する科目、教職科目および博物館関連科目を配置する。 ● 学部共通科目は、造形全般の基礎的知識やコースを越えた幅広い知識を学修し、総合的な観点から造形活動をとらえられるよう諸科目を配置する。 ● 学科専攻科目には造形理論科目、共通表現基礎科目のほか、アート表現コース、ビジュアルデザインコース、デジタル表現デザインコース、環境デザインコースを設け、各コースの専門科目を配置する。造形理論科目は、各コースに準じた専門的な知識を得るための科目だが、コースを越えて選択できるように配置する。共通表現基礎科目は、造形活動に必要な基礎的な技術を身に付けられるよう初年次に配置する。各コースの専門科目は、学生が所属するコースに分かれ、段階的に専門的な知識と表現技術・技法を習得できるように配置する。 ● 大学が独自に設定する科目、教職科目は教職の育成のために、博物館関連科目は学芸員の育成のために配置する。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/art/admission-policy/ ）</p>

<p>(概要)</p> <p>造形学科では具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 基礎的な文章読解能力、社会全般に関する基礎的知識、基礎的な造形技能を持つ者 ● 持っている知識・技能を様々な問題に適用し、自ら思考・判断できる者 ● 創り出すことが好きであり、多種多様なアートとデザインの分野に興味を持ち制作する者 ● 造形活動に目的意識を持って取り組み、他者に理解してもらおう姿勢を持つ者 ● 創作に関する技能・表現を身につけることに切磋琢磨する者

<p>学部等名 法学部 法律学科</p>

<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/ ）</p>

<p>(概要)</p> <p>法学部は、幅広い教養と高い公共性・倫理性に加えて法的知識やリーガルマインドを身に付けることにより、積極的に社会を支え、あるいは改善に導くことのできる人材の育成を目的とする。</p>

<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/law/admission-policy/ ）</p>

<p>(概要)</p> <p>知識・理解 法・政策に関する専門知識を土台に、社会の状況を適切に理解できる。特に、現代社会において基底価値をなす自由・平等・人権・民主主義といった基礎概念について十分に理解できる。</p> <p>思考・判断 現実を適切にとらえ、その問題を発見し、解決法を検討できる。適切な情報の収集・選択を行う情報リテラシーを身に付け、客観的かつ合理的な社会認識に基づき論理的な思考・判断ができる。</p> <p>関心・意欲 社会に関心を持ち、その中で生きる自分と社会の関わりについて考察することができる。社会の基底価値に関する理解に基づき、社会や自己についてより好ましい在り方について検討できる。</p> <p>態度 社会や自己の状況に関する適切な認識を元に、自らの在り方を作り上げることができる。</p>

<p>自らの意思に基づいて主体的に行動し、社会正義の実現のため積極的に関与できる。</p> <p>技能・表現 市民として他者と適切にかかわり社会生活を送ることができる。他者と適切にコミュニケーションをとることで、自らの意思の内にある社会像・自己像に向かうことができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/law/admission-policy/）</p>
<p>（概要） 専門科目は、教養教育科目で修得すべき基礎知識やスキルを基に、法律と政策に関する専門知識によって適切に社会を理解できるように、体系的段階を経ながら配置する。特に、法律総合コースにおいては法学の体系的理解を、公共政策コースにおいては政策的観点からの社会理解を可能とするよう、専門的体系化を伴う科目配置を行う。さらに、単なる知識の修得にとどまらず、社会の中で一人の市民として生きてゆく上で役立つように、演習科目を適切に配置する。このため、基礎から専門への適切な接続のため、法学政策学基礎演習を配置し、3・4年次においては各自の専門的関心に応じた専門演習を配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/law/admission-policy/）</p>
<p>（概要） 法律学科では具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人権に対して尊厳の気持ちを持っている者 ● 地域社会へ貢献したいという希望と意欲を持っている者 ● 周囲の人々と協力して物事を成し遂げようとする協調心を持っている者 ● 社会のルールや秩序の仕組みに関心を持っている者 ● 自らの責任において主体的に学習しようという意欲と向上心を持っている者 ● 物事に果敢に挑戦しようという意欲を持っている者

<p>学部等名 健康科学部 看護学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/）</p>
<p>（概要） 健康科学部は、幅広い教養と豊かな人間性を身に付け、看護学や理学療法学の専門知識と技術の修得のみならず、医療を支える優れたケアを提供するための最善の仕組みを創造し、実践する能力を有する人材の育成を目的とする。 看護学科は、看護学の専門知識と技術に加え、医学的・科学的根拠に基づいた適切な判断能力と問題解決能力を有し、他の医療専門職と連携を図りながら包括的な医療・保健サービスを実践できる人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-science/admission-policy/）</p>
<p>（概要） 知識・理解 看護専門職として、専門的な知識を土台に、人を包括的に理解することができる。 思考・判断 看護専門職として、様々な健康レベルにある個人・家族・集団の健康課題を見出し、計画的に看護を実践できる。 関心・意欲 看護専門職として、変化する社会の中で、継続的・発展的に自己を向上させるために必要</p>

<p>な専門性を探究する意欲を持つことができる。</p> <p>態度 看護専門職として生命の尊厳を重視し、人権擁護の責務を担う者として、必要な倫理観、豊かな人間性を高めることができる。</p> <p>技能・表現 看護専門職としての自覚を持ち、様々な職種と連携しながら、ヒューマンサービスを提供できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-science/admission-policy/）</p>
<p>（概要）</p> <p>医療専門職として深い教養と幅広い知識を養い、知徳を兼備した看護専門職の基盤となる教養教育科目を配置する。複雑化する保健医療福祉分野において、看護師としての責任と役割遂行のために、必要な生命の尊厳や人権の尊重を基盤とした人間を理解する能力や、適切な判断力・問題解決能力を養うことができるように専門基礎科目・専門科目を配置する。</p> <p>修得した知識を活用して、看護技術を展開できるための演習科目を配置する。臨地場面で看護の対象である人々とかかわり、専門的知識・技術を統合し実践できるように実習科目を配置する。さらに、看護師として必要な倫理観・看護観を育くみ、豊かな人間性を身につけさせる。保健医療福祉領域の専門職と協働し、変化する社会の要請に応えるために、静岡理学療法学科の学生とともに学ぶことのできる、学部共通の教養教育科目・専門基礎科目を配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-science/admission-policy/）</p>
<p>（概要）</p> <p>看護学科は具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 看護師として人々の健康生活に貢献したいという気持ちを持っている者 ● 人権を尊重し、生命に対する尊厳および人々への関心を持っている者 ● 主体的に学習しようという意欲と向上心がある者 ● 生涯にわたって、専門職として研鑽を積む意欲を持っている者
<p>学部等名 健康科学部 静岡理学療法学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/）</p>
<p>（概要）</p> <p>健康科学部は、幅広い教養と豊かな人間性を身に付け、看護学や理学療法学の専門知識と技術の修得のみならず、医療を支える優れたケアを提供するための最善の仕組みを創造し、実践する能力を有する人材の育成を目的とする。</p> <p>静岡理学療法学科は、理学療法学の専門知識と技術に加え、医学的・科学的根拠に基づいた適切な判断能力と問題解決能力を有し、他の医療専門職と連携を図りながら包括的な医療・保健サービスを実践できる人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-science/admission-policy/）</p>
<p>（概要）</p> <p>知識・理解 理学療法士としての専門的知識、実践力を身につけている。 国際化に対応した知識、視点を身につけている。</p> <p>思考・判断</p>

<p>患者に必要な情報を収集し、状況に応じて適切な判断することができる。</p> <p>関心・意欲 チーム医療において信頼関係を構築し協働する中で、理学療法士の重要性（役割）を自覚できる。 理学療法の発展のため、臨床の場において疑問や好奇心を持つことができる。</p> <p>態度 生命に対する深い畏敬の念と倫理観を有している。</p> <p>技能・表現 自己の専門性を発揮し、実践できる能力を有している。 良好な人間関係を築くため患者・医療従事者とコミュニケーションをとることができる。 臨床の場において疑問を解決するため、資源（文献検索、研究など）を活用することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-science/admission-policy/）</p>
<p>（概要） 1年次には、理学療法士として必要である生命、健康、社会、文化、コミュニケーションへの理解を深めるための基礎教育科目と、人体の構造と機能の理解を深めるための専門基礎科目を配置する。 2～3年次には、病態（病気）と障害を理解し、さらに保健医療福祉の理解を深めるための専門基礎科目を配置する。また、理学療法の基礎的知識・技術、それぞれの領域に特化した理学療法評価および技術を学ぶための専門科目を配置する。 4年次には、学んだ知識・技術を、臨床の現場でどう活用するのかについて学ぶ専門科目を配置する。また、チーム医療の一員として他の専門職と協働することを学ぶ専門科目を配置する。 臨床実習は、1・2年次に理学療法士への動機付けを目的に見学・体験実習を設ける。理学療法における評価および治療の習得を目的に、臨床実習Ⅰ・Ⅱを設置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-science/admission-policy/）</p>
<p>（概要） 静岡理学療法学科は具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 理学療法士として人々の健康生活に貢献したいという気持ちを持っている者 ● 人権や生命に対して尊厳の気持ちがあり、人と関わるのが好きな者 ● 地域社会に対して貢献する意欲を持っている者 ● 専門分野に対する探究心と向上心がある者
<p>学部等名 経営学部 経営学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/）</p>
<p>（概要） 経営学部は、「個の成長・社会との調和」をめざし、経営学の基本理論を修得し、その専門的応用・実践力をもって地域社会に貢献できる知恵と徳操を具備する人材の育成と、その育成の基盤となる研究の推進を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/management/admission-policy/）</p>

<p>(概要)</p> <p>知識・理解 経営学の基礎知識・基本理論を幅広く修得したうえで、経営・会計・情報、関連する経済分野における専門性を身に付けている。これらの専門知識を体系的に理解している。静岡県をはじめとする地域経済や環境問題等の現代社会の諸課題を理解している。</p> <p>思考・判断 修得した経営学の基礎知識を活用して、自らが取り組むべき課題を解決するための思考・判断をすることができる。経営学の基本理論を、経営・会計・情報、関連する経済分野において包括的かつ実践的に応用できる。</p> <p>関心・意欲 企業や行政機関で活躍するためのチャレンジ精神と実践力を持っている。仕事をとおして自己実現を図り、地域社会に貢献しながら自らも成長したいという意欲をもっている。複雑化・多様化する社会の中で新しい課題を発見することができる。</p> <p>態度 静岡県をはじめとする地域の発展に貢献するための知徳を兼備する。人として地域社会に生きる“術”や豊かな人間関係を築くことができる。将来の自己実現に向けて、継続的に主体的に学習に取り組むことができる。</p> <p>技能・表現 さまざまな業種・職種において必要とされる基本的な技能を身につけている。修得した知識や技能を活用し、思考・判断したことを、社会の中で実践に結びつけていくことができる。また、必要に応じて、体験したことや思考・判断したことを適切に記録、要約、説明できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/management/admission-policy/）</p>
<p>(概要)</p> <p>経営学とその関連領域の体系的学修と経営学教育の質保証をめざすために、まず、専門基礎科目において、専門科目を学ぶ上での導入科目を配置する。専門基礎科目の学修の上に、幅広い関心をもたせ、人間形成を促し、応用力を培う経営・会計・情報・経済の4分野の科目を配置する。また、キャリア支援のための専門関連科目、教職を強く希望する学生のために教職科目を配置する。さらに、専門教育科目の個々の学びを体系化し、4年間にわたる大学の学びの集大成として卒業研究をまとめ上げることを目的とする演習・卒業研究科目を配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/management/admission-policy/）</p>
<p>(概要)</p> <p>経営学科では、具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 経営、会計、情報、経済の専門分野を学び、地域の企業や自治体での働きを通じて地域社会に貢献したいという意思を持っている者 ● 高い専門性を目指し在学中に各種の資格を取得しながら、それらを将来の自己実現に役立てたいという意思を持っている者 ● 経営学部の学びを通して広い世界を視野に入れて、将来グローバルに活躍したいという意思を持っている者
<p>学部等名 健康プロデュース学部 健康栄養学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/）</p>

<p>(概要)</p> <p>健康プロデュース学部は、人が現代社会を健康に過ごすために、健康についての確かなサポートができる人材を育成し、健康を有機的総合的に捉えて 21 世紀に必要とされる新たな健康概念を模索、創造する研究の推進を目的とする。</p> <p>健康栄養学科は、多様な専門領域に関する基本となる能力や高度な栄養管理に必要とされる知識・技能、態度及び考え方の総合的能力、またチーム医療の重要性を理解し、その一員として責務を果たし得る能力及び他職種の人々や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力を有する人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/ ）</p>
<p>(概要)</p> <p>知識・理解 食の専門家として必要な食や健康・栄養に関する知識を習得し、それらを統合して活用する能力を身につけている。</p> <p>思考・判断 食や健康・栄養に関する情報に対して専門知識に基づいた的確な判断力、批判的な思考力や理論的な表現力を持ち、他者とコミュニケーションを図り、協働的に結論を導き出すことができる。</p> <p>関心・意欲 医療・福祉・教育の現場における多様な事象に対応するための実践的能力を向上させるために、自律的に深く追求しながら学ぶ力を身につけている。</p> <p>態度 食や健康・栄養に関する知識や技術および指導力の向上を自らに課すことができ、食の専門家としての規範意識や責任感を身につけている。</p> <p>技能・表現 食や健康・栄養に関する情報または研究成果を活用して、柔軟で適切な指導・教育や地域貢献できる能力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/ ）</p>
<p>(概要)</p> <p>栄養士免許ならびに管理栄養士受験資格の取得を基盤に授業科目を配置する。専門分野では「専門基礎」と「専門分野」に大別し、科目間知識の融合、基礎から実践への活用ができるよう体系的に科目を配置する。専門基礎分野では、「学科基礎科目」、「社会・環境と健康」、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「食べ物と健康」において講義及び実験・実習により、基礎的専門知識を養う。専門分野では「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」において講義、演習、実験・実習により技能の修得と向上を図る。さらに「総合演習」、「臨地実習」により専門知識と技能を統合し、実践力を養う。また、栄養教諭一種免許、フードスペシャリスト受験資格取得に関する授業科目も配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/ ）</p>
<p>(概要)</p> <p>健康栄養学科では、具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 管理栄養士、栄養教諭などの資格に関心があり、資格取得に向けて意欲と向上心を持って、自主的に取り組める者 ● 食の専門家として、保健・医療・福祉・食品産業などの分野で教育や指導、栄養管理を通して、地域に貢献したいという希望と意欲を持っている者 ● 食や健康・栄養について科学的に研究したい者

<p>学部等名 健康プロデュース学部 こども健康学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/ ）</p>
<p>（概要） 健康プロデュース学部は、人が現代社会を健康に過ごすために、健康についての確かなサポートができる人材を育成し、健康を有機的総合的に捉えて 21 世紀に必要とされる新たな健康概念を模索、創造する研究の推進を目的とする。 こども健康学科は、「こどもにとっての真の意味での『健康』とは何か」を現代科学の最先端に立って多角的に考究すること及びそこから得られた専門的知見に基づき、「こどもの健康」を保育・幼児教育の立場から総合的に実現できる人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/ ）</p>
<p>（概要） 知識・理解 保育専門職としての確かな専門性を身につけている。現代および将来の保育や健康課題に対処するために必要な知識を身につけ、その意義を理解している。 思考・判断 保育専門職として相応しい職業倫理観を持っている。地域社会のために幅広い視野で問題解決できる。 関心・意欲 いろいろなことに「気づく目」「感じる心」を持っている。現代社会の様々な問題に関心を持ち、専門職として考え、意欲的に行動できる。 態度 保育専門職として、子どもの健康に関する様々な問題を総合的に把握することができる。豊かな人間性を備えた未来志向の実践者として努力することができる。 技能・表現 獲得した知識とスキルを活用して、家庭や地域と連携し、子どもの健やかな成長に貢献することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/ ）</p>
<p>（概要） 専門教育は、科目群を「基礎理論系科目」と「基礎演習系科目」及び、「応用理論系科目」「教育内容・方法論系科目」「応用演習系科目」「専門演習系科目」「総合表現活動演習系科目」「実習系科目」という合計 8 つの科目群に分けられる。教育課程は、各科目間における相互の関連や連携が十分に留意されたうえで構成され、保育実践力および保育研究力の養成のために体系化する。基礎理論系科目及び基礎演習系科目の授業は、専門教育の基礎を構築させることを目的としたものであり、主に、1・2 年次に展開し、多くの必修科目を配置する。その他の 6 つの科目群は学生一人ひとりの興味関心や進路希望による広範な選択に対応する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/ ）</p>
<p>（概要） こども健康学科では、具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの健康な生活や遊びに関心・意欲を持ち、保育専門職に就くための情熱と根気を兼ね備えた者 ● 保育スキル修得・コミュニケーション能力や保育研究力向上に努め、知識・技能を活かして社会貢献する意欲のある者

学部等名 健康プロデュース学部 心身マネジメント学科
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/ ）
（概要） 健康プロデュース学部は、人が現代社会を健康に過ごすために、健康についての確かなサポートができる人材を育成し、健康を有機的総合的に捉えて 21 世紀に必要とされる新たな健康概念を模索、創造する研究の推進を目的とする。 心身マネジメント学科は、「人間が生きていく」ことに直結する「身体」「心理」の領域を統合させながら学際的な視点で学び、それらを取り巻く「社会」の領域でこれらを補完することによって、健康増進にとどまらず、21 世紀社会に求められる積極的な生き方やそこから生み出される健康づくりに貢献できる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/ ）
（概要） 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ● 時代の要請や人々の価値観によって変化する健康や体育・スポーツの概念についての基礎的知識を理解している。 ● 理論面、実践面の両面から健康や体育・スポーツを捉えることのできる広い視野を身につけている。 ● 得意とする分野において求められる高度で専門性の高い知識や技能を修得している。 思考・判断 <ul style="list-style-type: none"> ● 新しい健康観とはどのようなものか、あるいは競技者のサポートやスポーツ振興の要点とはどのようなものかを、多様な視点から大局的に考えることができる。 ● 個々の課題や問題について考察し、それらを解決するための適切なアプローチを判断し選択することができる。 関心・意欲 <ul style="list-style-type: none"> ● 心身の健康づくりや競技力の発揮・向上、体育・スポーツと社会や文化との関係性に興味関心を持ち、主体的かつ計画的に課題や問題の解決に取り組むことができる。 ● 得意とする分野以外にも幅広くアンテナを張り、専門的な実践力をさらに高めるために活かすことができる。 態度 <ul style="list-style-type: none"> ● 成果を生み出す人間関係を構築するコミュニケーション能力を有するとともに、求められる場に応じてリーダーシップを発揮し、社会の一員として適切に振る舞うことができる。 ● 関係者同士の立場や考え方を尊重し、連携を図りながら、個人や集団、あるいは地域社会等における健康増進・健康創造、競技力の発揮・向上やスポーツ振興等に貢献することができる。 技能・表現 <ul style="list-style-type: none"> ● 健康やスポーツに関するさまざまな課題について、修得した専門的知識や技能を総合的に活用・応用し、わかりやすく説明し実践することができる。 ● 子どもから高齢者まであらゆる年齢層に応じて、あるいは疾病・障害の有無を問わず、さまざまな健康レベルや競技レベルに合わせて、効果的な指導や支援を行うことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/ ）

<p>(概要)</p> <p>心身マネジメント学科では、健康づくり、スポーツ、医療・福祉、教育など、さまざまな分野で活躍し、地域社会等における健康づくりやスポーツの発展に貢献できる人材を養成するために、「身体」と「心理」の領域及び人間を取り巻く「社会」の領域を含めた科目を配置する。</p> <p>「基幹科目」では、運動生理、解剖、スポーツ、心理、社会、文化などの視点から学びの根幹を形成する必修科目を配置する。さらに、各領域の「専門科目」を配置することで3領域の学びを総合的に修得し、上級学年での専門性の高い学習に向けての土台を形成する。</p> <p>「発展科目」では、目指す進路に応じた専門的な学びを深める。各領域において、専門性の高い知識や理論と高度な実践力を身につけることができるように演習や実技科目を配置する。修得した知識や技能を統合し、課題や問題を自ら発見し、解決に向けて取り組む態度を育成するために、専門演習および卒業研究を必修科目として配置する。</p>

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/ ）</p>

<p>(概要)</p> <p>心身マネジメント学科では、具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「身体」「心理」とそれを補完する「社会」の3分野を健康学の視点から幅広く学ぶ意欲のある者 ● 将来、スポーツ、医療・福祉、教育といった健康に関わる現場及び社会の様々な環境で活躍する意欲のある者 ● 常に自律的に行動し、自己の活躍の場を見いだす能力を身につけたい者

<p>学部等名 健康プロデュース学部 健康鍼灸学科</p>

<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/ ）</p>

<p>(概要)</p> <p>健康プロデュース学部は、人が現代社会を健康に過ごすために、健康についての確かなサポートができる人材を育成し、健康を有機的総合的に捉えて21世紀に必要なとされる新たな健康概念を模索、創造する研究の推進を目的とする。</p> <p>健康鍼灸学科は、広い教養を身につけると同時に、西洋近代医学・東洋伝統医学の知識を土台にし、高度な東洋臨床技術を身につけた鍼灸師を養成する。また、鍼灸を医療にとどまらず健康運動、介護福祉、美容、経営などの様々な分野へ展開し得る人材を育成する。</p>

<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/ ）</p>

<p>(概要)</p> <p>知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医療や健康の対象者である「個」を理解している。 ● 文化や社会情勢に対する幅広い知識を身につけている。 ● 専門職として必要な現代医学と東洋医学の知識を身につけている。 <p>思考・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 鍼灸を基軸として、健康、運動、疾病について科学的に研究し、現代医学と東洋医学の知識を融合させた思考ができる。 ● 現代医学的な鍼灸技術と東洋医学的な鍼灸技術の共通点、相違点を理解し、客観的な視点に立って治療効果を判断できる。 <p>関心・意欲</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医療にとどまらず、介護福祉、スポーツ健康産業、美容、カウンセリング、研究など様々な分野へ鍼灸学を展開することに興味、関心を持つことができる。

<ul style="list-style-type: none"> ● 東洋医学的視点と鍼灸技術とを手段として活用し、個の健康に対するニーズに応えることができる。
態度 <ul style="list-style-type: none"> ● 医療人としてのモラル、マナー、礼儀を身につけ、実践できる。 ● 高い倫理観を備え、他者から信頼を得ることができる。 ● 情報収集能力、コミュニケーション能力を持ち、論理的かつ創造的な思考ができる。
技能・表現 <ul style="list-style-type: none"> ● 定期的なレポート作成、卒業研究などを通して、学びの結果や主張を表現できる。 ● 東洋医学と現代医学を融合した集学的治療を実践活用できる。 ● 保健医療活動について広い視野に基づく判断力を持ち、地域社会に貢献することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/ ）
（概要） 鍼灸師に必要な現代医学の基礎・専門知識を習得するため、解剖学、生理学、臨床医学等の分野を含む基礎医学科目を配置する。 <ul style="list-style-type: none"> ● 健康を視点に定めた鍼灸学の専門知識・診察法・治療技術・治療効果の評価が体系的に学習できるよう、基礎実習、臨床実習を含む鍼灸学科目を配置する。 ● 専門知識と実技での学びを総合的・総括的・立体的に再構築し、鍼灸学を様々な分野へ展開するため、専門演習科目を配置する。 ● 社会の健康に対するニーズに実践的に応える健康運動・体作りに関する知識と技術を習得するため、健康運動学科目を配置する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/ ）
（概要） 健康鍼灸学科では、具体的に次のような学生を求めます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 鍼灸師の仕事・国家資格に関心があり、その知識・技術の習得と資格取得に意欲のある者 ● 地域社会に関心を持ち、自らの知識・技術を基にした地域貢献への努力を惜しまない者 ● 鍼灸を基軸として健康・運動・疾病などについて科学的に研究したい者

学部等名 健康プロデュース学部 健康柔道整復学科
教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/ ）
（概要） 健康プロデュース学部は、人が現代社会を健康に過ごすために、健康についての確かなサポートができる人材を育成し、健康を有機的総合的に捉えて 21 世紀に必要とされる新たな健康概念を模索、創造する研究の推進を目的とする。 健康柔道整復学科は、西洋医学の知識を土台にし、柔道整復の臨床技術を身につけ、モラルと品格を備えた人間性豊かな柔道整復師を養成する。また、柔道整復学を通じたスポーツクラブ・介護施設での運動指導や、今後の超高齢社会に向けた高齢者の健康増進と健康寿命の伸長に貢献できる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/ ）
（概要） 知識・理解

<p>西洋医学を基礎とした「柔道整復学」の成り立ちと学問体系を十分に理解している。柔道整復師国家試験に合格するために必要とされる十分な知識を身につけている。臨床において、疾患を正確に診察する能力と適正な治療に関する知識を身につけている。</p> <p>思考・判断 収集した患者情報を統合して論理的に思考し、柔道整復術の適否を客観的に判断できる。患者に最も適した治療方針を立て、適正な治療方法を判断できる。</p> <p>関心・意欲 柔道整復学領域のみではなく、その修得に必要なとされる幅広い周辺の医学分野全般に強い関心をもつことができる。その必要性を理解した上で、必須とされる知識の探求を意欲的に行い、積極的にチーム医療に参加することができる。</p> <p>態度 医療従事者としてふさわしい態度で、すべての世代にわたる患者に接することができる。地域に根ざした身近な医療従事者として信頼を獲得し、地域の他の医療機関と連携して地域医療に貢献できる。</p> <p>技能・表現 各種の検査・物理療法機器を適切に選択し、その操作に習熟して使用することができる。それぞれの部位による骨折・脱臼・捻挫等に対して適切な診察および確実な整復・固定ができる。患者に対し予後や合併症を十分把握したうえで、QOL（生活の質）を向上のための適切な援助とアドバイスができる。他の医療従事者と適切なコミュニケーションを計り、医療の連携に向けた関係を構築することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/）</p> <p>（概要） 日本の伝統医療から生まれた柔道整復学を、西洋医学を基礎とした科学的思考に基づく学問分野として包括的に理解できるよう、必要な基礎科目を配置する。 基礎科目の選定に関しては、患者に対する治療方針の説明責任を果たすために必要となる各種基礎科目を配置する。 他の医療従事者との綿密な連携に必須となる科学的基礎知識、医学的基礎・応用知識を習得するための科目をバランスよく配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-produce/admission-policy/）</p> <p>（概要） 健康柔道整復学科では、具体的に次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 柔道整復学に関心が深く、国家資格取得に強い意欲のある者 ● 医学に関する広範な知識と柔道整復学に関する手技を積極的に涵養し、社会貢献を惜しまない者 ● 伝統的医術の深化とその科学的発展のために努力する意欲のある者 ● 医療者としての高い職業倫理を身につけ、法令遵守の精神を涵養する者
<p>学部等名 保健医療学部 理学療法学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/）</p>

<p>(概要)</p> <p>保健医療学部は、高齢化にともなう慢性疾患の増加、医学の進歩がもたらす救命率の上昇などによる疾病構造の変化にともない、保健・医療・福祉のさらなる充実が求められている状況の中で、リハビリテーション医療の役割がますます増大している。倫理観と使命感に溢れ、幅広い教養と高度な専門知識及び技術を合わせもった理学療法士・作業療法士を育成し社会に送り出すことで、国民の健康及び生活の質の維持・増進に資することを目的とする。</p> <p>理学療法学科は、医療専門職として高い倫理観、使命感を備え、現代の理学療法分野において特に要請されている「運動障害」「神経障害」「内部障害」の領域について豊富な知識と高度な専門技術をもつ人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-care/admission-policy/ ）</p>
<p>(概要)</p> <p>知識・理解 広範な分野における学識を持つとともに、人体の構造と機能、各種疾病の成り立ち、理学療法評価の構造及び理学療法的手段を説明することができる。</p> <p>思考・判断 対象者の課題を包括的に捉えるための理学療法評価法を適切に選択し、そこから得られた結果を総合的に考え、課題解決のための適切な理学療法プログラムを立案することができる。</p> <p>関心・意欲 保健・医療・福祉の仕組み及び社会における理学療法の役割を説明することができる。</p> <p>態度 物事の事象を客観的に捉え、自らの考えを論理的に組み立てることができる。また、課題に対して能動的に取り組み、決められた時間内に完結することができる。</p> <p>技能・表現 基本的な理学療法評価・治療技術を実際に疾患や障害を持つ人に応用することができる。また、他の医療従事者と協調して対象者の課題解決を図ることができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-care/admission-policy/ ）</p>
<p>(概要)</p> <p>教養教育科目（全学共通科目） 大学での学びの素養を身につけるために必修科目「人間力セミナー」「教養セミナー」を設け、さらに幅広い教養を身につけ、生涯にわたり学び続ける態度を養う知識系科目とコンピュータや外国語の活用力を養うスキル系科目を設定する。</p> <p>専門科目 医学全般の基礎となる専門基礎科目と、運動器系障害、神経系障害、内部障害の3分野を主体とした理学療法の専門教育科目を、体系的段階を経ながら配置する。専門教育科目では、理学療法の基本的な専門技術を身につけるために理学療法評価学、理学療法治療学に関する演習科目を豊富に配置するとともに、病院等各種施設での実践能力を身につけるために臨地で行う実習科目を配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-care/admission-policy/ ）</p>

<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療・福祉分野における理学療法の役割を理解し、理学療法学を主体的に学ぶとともに、多様な価値観を尊重できる豊かな人間性を身につける意欲を持っている者 2. 理学療法の現状について多面的に分析し、導き出された課題に対して適切な解決策を講じる意欲を持っている者 3. 身体に障害を持つ人の機能と生活を回復・拡充させることで、地域社会に貢献する意欲を持っている者

<p>学部等名 保健医療学部 作業療法学科</p>

<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/）</p>

<p>(概要)</p> <p>保健医療学部は、高齢化にともなう慢性疾患の増加、医学の進歩がもたらす救命率の上昇などによる疾病構造の変化にともない、保健・医療・福祉のさらなる充実が求められている状況の中で、リハビリテーション医療の役割がますます増大している。倫理観と使命感に溢れ、幅広い教養と高度な専門知識及び技術を合わせもった理学療法士・作業療法士を育成し社会に送り出すことで、国民の健康及び生活の質の維持・増進に資することを目的とする。</p> <p>作業療法学科は、医療専門職として高い倫理観、使命観を備え、現代の作業療法分野において特に要請されている「身体障害」「精神障害」「発達障害」「高齢期障害」の領域について豊富な知識と高度な専門技術をもつ人材を育成する。</p>

<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-care/admission-policy/）</p>

<p>(概要)</p> <p>知識・理解 広範な分野における学識を持つとともに、人体の構造と機能、各種疾病の成り立ち、作業療法評価の構造及び作業療法の手段を説明することができる。</p> <p>思考・判断 対象者の課題を包括的に捉えるための作業療法評価法を適切に選択し、そこから得られた結果を総合的に考え、課題解決のための適切な作業療法プログラムを立案することができる</p> <p>関心・意欲 保健・医療・福祉の仕組み及び社会における作業療法の役割を説明することができる。</p> <p>態度 物事の事象を客観的に捉え、自らの考えを論理的に組み立てることができる。また、課題に対して能動的に取り組み、決められた時間内に完結することができる。</p> <p>技能・表現 基本的な作業療法評価・治療技術を実際に疾患や障害を持つ人に応用することができる。また、他の医療従事者と協調して対象者の課題解決を図ることができる。</p>

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-care/admission-policy/）</p>

<p>(概要)</p> <p>教養教育科目（全学共通科目） 大学での学びの素養を身につけるために必修科目「人間力セミナー」「教養セミナー」を設け、さらに幅広い教養を身につけ、生涯にわたり学び続ける態度を養う知識系科目とコンピュータや外国語の活用力を養うスキル系科目を設定する。</p> <p>専門科目 医学全般の基礎となる専門基礎科目と、身体障害、精神障害、発達障害、高齢期障害の4分野を主体とした作業療法の専門教育科目を、体系的段階を経ながら配置する。専門教</p>

<p>育科目では、作業療法の基本的な専門技術を身につけるために作業療法評価学、作業療法治療学に関する演習科目を豊富に配置するとともに、病院等各種施設での実践能力を身につけるために臨地で行う実習科目を配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/health-care/admission-policy/ ）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療・福祉分野における作業療法の役割を理解し、作業療法学を主体的に学ぶとともに、多様な価値観を尊重できる豊かな人間性を身につける意欲を持っている者 2. 作業療法の現状について多面的に分析し、導き出された課題に対して適切な解決策を講じる意欲を持っている者 3. 心身に障害を持つ人の機能と生活を回復・拡充させることで、地域社会に貢献する意欲を持っている者
<p>学部等名 社会環境学部 社会環境学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/ ）</p>
<p>（概要）</p> <p>社会環境学部は、環境問題の解決や社会の安全のための社会システムの構築を目指し、関連する自然科学分野の知識と理解と、それらを前提とした社会科学分野の視点に基づく問題解決型の教育研究に重点をおき、複数専門分野の教員による学際的内容とするために授業を展開し、地球環境や防災のために貢献できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/social/admission-policy/ ）</p>
<p>（概要）</p> <p>知識・理解 環境・防災分野の専門知識を有し、環境や防災の課題について、自然環境と人間社会の相互関係から把握し理解することができる。</p> <p>思考・判断 環境・防災分野に関する専門知識を基に、地域社会の中で暮らしを営む“ヒト“の視点から問題を発見し、最適解を探求することができる。</p> <p>関心・意欲 環境や防災の問題にとどまらず、持続可能な社会の実現に貢献することを目指し、社会の抱える課題の解決のための幅広い学問的好奇心を持つことができる。</p> <p>態度 環境課題や防災課題を克服した持続可能な社会システムの構築を目指すことができる。</p> <p>技能・表現 環境問題の解決や安全な社会システムの構築のために、実践的な知識、素養、技術を身に付け、広く社会に貢献できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/social/admission-policy/ ）</p>
<p>（概要）</p> <p>専門教育科目は、環境問題の解決や社会の安全確保のための社会システム構築の実現に貢献できる人材を育成するために、相互に深く関連している「環境」および「防災」に関わる学問分野とその関連領域の系統的・順次的学修をめざす科目区分を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、専門基礎科目では、「環境」および「防災」両分野の基礎理論・知識、歴史的理解、基礎的技術等を修得するために必要な講義・実習科目を1～2年次に配置する。

<ul style="list-style-type: none"> ・次に、社会環境学部を構成する「環境」と「防災」の2コースの学びの目的に沿ったコース専門科目では、より専門的な知識・技術等を修得するための講義・実験・実習科目を2～3年次を中心に配置し、「環境」コースでは、教職（理科）を志望する学生のための教職科目も配置する。 ・そして、学部における学びの集大成として卒業研究を完成させる総合演習科目では、専門教育科目の知識を統合し、良識ある社会人となるための能動的学修を必須とする少人数の演習科目を3～4年次に配置する。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/social/admission-policy/ ）</p>
<p>（概要） 社会環境学科では、具体的に次のような学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的文章の読解力や構成力、および基礎的数理能力や推理能力を持った者 2. 専門的知識や広い教養を獲得しうる全般的な基礎学力を持った者 3. 自ら考え、自ら行動し、己を客観的に評価できる資質を持った者 4. 持続可能な社会の実現をめざし、現代社会がかかえる環境や防災に関する諸課題の解決のための知識や判断力獲得に意欲的な姿勢を持った者

<p>学部等名 保育学部 保育学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/ ）</p>
<p>（概要） 保育学部は、社会環境の変化の中で、保育・幼児教育が社会的に有用な存在として、その機能を十分に果していくために、「人間性を育む教育」「障がい児教育・環境教育」「健康教育」「感性教育」の4つの理念の下、高い人間性と保育技術の向上に加え、特別支援教育等新たなニーズに対応できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/childcare/admission-policy/ ）</p>
<p>（概要）</p> <p>知識・理解 保育の基礎的な知識を土台に、実践を通して、専門性の理解を深めることができる。</p> <p>思考・判断 保育課題について自ら考え、解決方法を提案することができる。</p> <p>関心・意欲 保育課題に関心を持ち続け、解決に向けて取り組む意欲を維持することができる。</p> <p>態度 保育課題に対し、他者との協働を重んじて貢献することができる。</p> <p>技能・表現 子どもの感性や創造力を引き出す表現力と技能を活用することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/childcare/admission-policy/ ）</p>
<p>（概要） ディプロマポリシーの達成を目指し、保育の基礎・理論的な講義・実技科目を1年次に、保育の領域に分かれた専門的・実践的な内容の講義・演習・実習科目を2年次から配置し、専門教育科目の広い学びからより専門性を究めて集大成とする卒業研究関連科目を3・4年次に配置する。またこの専門教育科目構成の中に、保育士養成課程科目及び教職課程科目を適切に配置し、臨地実習を核とする教育課程を体系的に編成する。</p>

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにおいて公表
<https://www.tokoha-u.ac.jp/childcare/admission-policy/>）

（概要）

保育学科では、具体的に次のような学生を求めます。

- 子どもが大好きで、子どものより良き理解者になれる者
- 困難を抱える、幼児期の子どものために尽くしたい者
- 子ども達に豊かな感性と夢を与えたい者
- 子ども達と共に、自然の中で、歌い・踊り・語り・製作し、身体ごと全身で活動したい者
- 保育の専門的知識・技術の習得に対して積極的で意欲のある者

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： ホームページにおいて公表
<https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/02/>
<https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/03/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
教育学部	—	21人	25人	7人	2人	1人	56人
外国語学部	—	13人	9人	4人	1人	0人	27人
造形学部	—	6人	2人	3人	0人	0人	11人
法学部	—	8人	4人	3人	2人	0人	18人
健康科学部	—	11人	12人	10人	2人	7人	42人
経営学部	—	10人	16人	6人	2人	0人	34人
健康プロデュース学部	—	29人	17人	14人	8人	7人	75人
保健医療学部	—	7人	9人	4人	0人	0人	20人
社会環境学部	—	9人	7人	1人	0人	0人	17人
保育学部	—	6人	7人	3人	2人	0人	18人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		277人					0人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/teachers/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>教育内容・方法の向上を目的とする取り組みとして、毎年6月と11月に「授業力向上強化月間」を設定し、法人内の各学校の教員が相互に授業を参観している。これは教員の授業力向上だけでなく、学校種や職位を超えた教員間の交流促進の役割も果たしている。</p> <p>教職員の資質向上への取り組みについては、FD・SD委員会を中心に年に複数回の研修会を開催し、学生支援、授業改善、研究倫理、ハラスメント防止、地域貢献、産学交流等のテーマで研修を行っている。</p> <p>また、毎年、法人内の全教職員を対象とした研修会や管理職教職員を対象とした管理職研修会をそれぞれ実施し、コンプライアンスに関する講演の開催、教職協働、高大連携等をテーマとして協議の場を設けている。</p> <p><令和4年度 FD 研修会の実施テーマ例> 私立大学を取り巻く現状と課題について、私立大学等経常費補助金の申請業務について、学生アンケート・授業アンケート結果について、研究倫理研修、ハラスメントについて、各学部・各学科・各科のFDSD計画による実施（年3回）等 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/internal-quality-assurance/fd-sd/</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
教育学部	300人	374人	113.3%	1140人	1222人	107.2%	-人	0人

外国語学部	220人	153人	69.5%	730人	628人	86.0%	-人	0人
造形学部	100人	97人	97.0%	400人	393人	98.3%	-人	0人
法学部	200人	148人	74.0%	680人	615人	90.4%	-人	0人
健康科学部	140人	138人	98.6%	560人	576人	102.9%	-人	0人
経営学部	345人	412人	119.4%	1250人	1352人	108.2%	-人	0人
健康プロデュース学部	300人	242人	80.7%	1215人	1060人	87.2%	-人	0人
保健医療学部	80人	74人	92.5%	320人	327人	102.2%	-人	0人
社会環境学部	120人	140人	116.7%	425人	445人	104.7%	-人	1人
保育学部	160人	146人	91.3%	645人	637人	98.8%	-人	0人
合計	1995人	1924人	96.4%	7365人	7255人	98.5%	-人	1人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	
			就職者数	その他
教育学部	321人 (100%)	18人 (5.6%)	287人 (89.4%)	16人 (5.0%)
外国語学部	199人 (100%)	0人 (0%)	175人 (87.9%)	24人 (12.1%)
造形学部	104人 (100%)	0人 (0%)	94人 (90.4%)	10人 (9.6%)
法学部	206人 (100%)	0人 (0%)	183人 (88.8%)	23人 (11.2%)
健康科学部	135人 (100%)	0人 (0%)	132人 (97.8%)	3人 (2.2%)
経営学部	290人 (100%)	1人 (0.3%)	267人 (92.1%)	22人 (7.6%)
健康プロデュース学部	296人 (100%)	3人 (1.0%)	265人 (89.5%)	28人 (9.5%)
保健医療学部	61人 (100%)	0人 (0%)	55人 (90.2%)	6人 (9.8%)
社会環境学部	116人 (100%)	0人 (0%)	107人 (92.2%)	9人 (7.8%)
保育学部	173人 (100%)	0人 (0%)	169人 (97.7%)	4人 (2.3%)
合計	1,901人 (100%)	22人 (1.2%)	1,734人 (91.2%)	145人 (7.6%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)

【進学先】常葉大学大学院、静岡大学教職大学院、東洋大学大学院、山梨大学教職大学院、立教大学大学院

【就職先】(株)静岡日立、鈴与商事(株)、東海澱粉(株)、トヨタモビリティパーツ(株)、エー(株)、リコージャパン(株)、(株)アイエイ、(株)アマダ、(株)シヤンソ化粧品、スズキ(株)、日本プラスチック(株)、はごろもフーズ(株)、ヤマハ発動機(株)、矢崎総業(株)、(株)アルパイトタイムス、(株)建設システム、静銀ITソリューション(株)、日本放送協会(NHK)、ヤマハモーターソリューション(株)、エンジンジャパン(株)、(一財)静岡県交通安全協会、静和エンバロメント(株)、総合警備保障(株)、(株)マキエー、アルビレックス新潟シンガポール、(株)いわきスポーツクラブ、(株)SBSプロモーション、TBCグループ(株)、(株)フジコー、(株)静岡銀行、静岡県労働金庫、(株)清水銀行、明治安田生命保険相互会社、静岡県、静岡市、藤枝市、富士市、浜松市、静岡県警察、静岡市消防局、陸上

自衛隊、大井川農業協同組合、静岡市農業協同組合、とびあ浜松農業協同組合、富士伊豆農業協同組合、さわかか(株)、スターバックスコーヒージャパン(株)、(株)東横イン、(株)中島屋ホテルズ、ブリーズベイ静岡(株)、鈴与通関(株)、コミュニケーションソリューションズ(株)、東京地下鉄(株)、日本貨物鉄道(株)、(株)アィ不動産、太陽建機レンタル(株)、東建コーポレーション(株)、東電用地(株)、(株)レント、県内公立・私立幼稚園・こども園、静岡県(小学校、中学校)、(福)聖隷福祉事業団、(株)秀英予備校、県内公立・私立保育園、県外保育園、静岡県立病院機構、静岡県立がんセンター、日本年金機構、(株)一条工務店、セキスイハイム東海(株)、日特建設(株)、(株)ミラホーム静岡、菱和設備(株)、安倍川開発(株)、エゼン(株)、(株)TOKAI ホルディングス、(株)サイン、(株)中部プラントサービス (備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 年間の授業の計画については、5月より前年度の振り返りと次年度の計画の作成に着手し、11月頃に概ね決定する。 11月中旬から授業科目担当者に対して、授業計画(シラバス)の作成を依頼し、12月下旬までに提出させるとともに、提出の際にシラバスの自己点検の結果を併せて提出させている。 その後、各学科から選出されたシラバスチェック担当者によるシラバスチェックを行い、3月中旬までの間、必要に応じてシラバスの修正を依頼する。 3月下旬から本学ホームページ上においてシラバスを公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
学習成果に係る評価は、シラバスの中に成績評価の方法・基準に基づき、試験、レポート、受講態度など授業の特性にあった適切な方法により、成績評価規程の基準を踏まえ、厳格かつ適正に評価して単位を与えている。 また、卒業の認定にあたっては、卒業認定に関する方針に基づき、学生の修得単位数、在学期間等を踏まえ、卒業を認定している。				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
教育学部	初等教育課程	124単位	有・無	48単位
	生涯学習学科	124単位	有・無	48単位
	心理教育学科	124単位	有・無	48単位
外国語学部	英米語学科	124単位	有・無	48単位

	グローバルコミュニケーション学科	1 2 4 単位	有・無	4 8 単位
造形学部	造形学科	1 2 4 単位	有・無	4 8 単位
法学部	法律学科	1 2 4 単位	有・無	4 4 単位
健康科学部	看護学科	1 2 4 単位	有・無	4 4 単位
	静岡理学療法学科	1 2 4 単位	有・無	4 4 単位
経営学部	経営学科	1 2 4 単位	有・無	4 4 単位
健康プロデュース学部	健康栄養学科	1 2 4 単位	有・無	4 2 単位
	こども健康学科	1 2 4 単位	有・無	4 4 単位
	心身マネジメント学科	1 2 4 単位	有・無	4 2 単位
	健康鍼灸学科	1 2 4 単位	有・無	4 2 単位
	健康柔道整復学科	1 2 4 単位	有・無	4 2 単位
保健医療学部	理学療法学科	1 2 4 単位	有・無	4 6 単位
	作業療法学科	1 2 4 単位	有・無	4 6 単位
社会環境学部	社会環境学科	1 2 4 単位	有・無	4 2 単位
保育学部	保育学科	1 2 4 単位	有・無	4 2 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： ホームページにおいて公表
<https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/07/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

■令和5年度入学者

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
教育学部	初等教育課程	840,000円	240,000円	500,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
	生涯学習学科	800,000円	240,000円	470,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
	心理教育学科	810,000円	240,000円	480,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
外国語学部	英米語学科	790,000円	240,000円	460,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
	グローバルコミュニケーション学科	790,000円	240,000円	460,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
社会環境学部	社会環境学科	900,000円	240,000円	510,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
保育学部	保育学科	810,000円	240,000円	510,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
経営学部	経営学科	760,000円	240,000円	460,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
造形学部	造形学科	900,000円	240,000円	550,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
法学部	法律学科	760,000円	240,000円	460,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
健康科学部	看護学科	950,000円	240,000円	900,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料
	静岡理学療法学科	910,000円	240,000円	800,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料
健康プロデュース学部	健康栄養学科	790,000円	240,000円	650,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料
	こども健康学科	810,000円	240,000円	510,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
	心身マネジメント学科	840,000円	240,000円	550,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
	健康鍼灸学科	990,000円	240,000円	800,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料
	健康柔道整復学科	990,000円	240,000円	800,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料
保健医療学部	理学療法学科	910,000円	240,000円	800,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料
	作業療法学科	910,000円	240,000円	800,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料

■令和3年度及び令和4年度入学者

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
教育学部	初等教育課程	840,000円	—	500,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
	生涯学習学科	800,000円	—	470,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
	心理教育学科	810,000円	—	480,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
外国語学部	英米語学科	790,000円	—	460,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
	グローバルコミュニケーション学科	790,000円	—	460,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
社会環境学部	社会環境学科	900,000円	—	510,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
保育学部	保育学科	810,000円	—	510,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
経営学部	経営学科	760,000円	—	460,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料

造形学部	造形学科	900,000円	—	550,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
法学部	法律学科	760,000円	—	460,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
健康科学部	看護学科	950,000円	—	900,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料
	静岡理学療法学科	910,000円	—	800,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料
健康プロデュース学部	健康栄養学科	790,000円	—	650,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料
	こども健康学科	810,000円	—	510,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
	心身マネジメント学科	840,000円	—	550,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
	健康鍼灸学科	990,000円	—	800,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料
	健康柔道整復学科	990,000円	—	800,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料
保健医療学部	理学療法学科	910,000円	—	800,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料
	作業療法学科	910,000円	—	800,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料

令和2年度以前入学者

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
教育学部	初等教育課程	800,000円	—	460,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
	生涯学習学科	780,000円	—	460,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
	心理教育学科	780,000円	—	460,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
外国語学部	英米語学科	760,000円	—	450,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
	グローバルコミュニケーション学科	760,000円	—	450,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
社会環境学部	社会環境学科	880,000円	—	500,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
保育学部	保育学科	790,000円	—	510,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
経営学部	経営学科	720,000円	—	450,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
造形学部	造形学科	860,000円	—	510,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
法学部	法律学科	720,000円	—	450,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
健康科学部	看護学科	940,000円	—	890,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料
	静岡理学療法学科	900,000円	—	790,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料
健康プロデュース学部	健康栄養学科	760,000円	—	640,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料
	こども健康学科	790,000円	—	510,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
	心身マネジメント学科	820,000円	—	540,000円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
	健康鍼灸学科	990,000円	—	800,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料
	健康柔道整復学科	990,000円	—	800,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料
保健医療学部	理学療法学科	900,000円	—	790,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料
	作業療法学科	900,000円	—	790,000円	その他：施設設備整備費、実習費、休学中の在籍料

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

学生支援センター

学生に対する様々な支援の総合窓口として、学生支援センターを設置している。同センターでは、学修、進路、対人関係など、学生一人ひとりの課題や問題と向き合いながら、学生の皆さんが実りある学生生活を送ることができるよう、学内の部署や学外の関係機関と連絡や調整を行い、サポートを行っている。

その他、学生の多様な学びに対応するための様々な修学支援を行っている。

指導教員制度

全ての学生に対して、学部・研究科の教員1名を指導教員として配置する指導教員制度を導入している。学生は学業上の問題や一身上の問題など、修学中の様々な問題について指導教員に相談し、適切な指導・助言を得ることができる。

オフィスアワー制度

学生と教員との緊密なコミュニケーションを図るため、あらかじめ登録してある時間に研究室に在室し、訪問学生との交流を図るオフィスアワー制度を導入している。学生は、授業時間中では十分に尋ねることができなかったことを質問し、所属学部・学科以外の教員から幅広い知識・情報に触れることができる。

基礎教育センター

基礎教育センターは、多様な学習歴・学力・資質を持って入学してくる学生に対して、一定水準の基礎教養並びに専門分野を学ぶための基礎学力の定着を図るため、入学前教育から入学後の学習支援まで継続的に指導を行っている。個別の学習相談等も実施している。

外国語学習支援センター

外国語学習支援センターは、国際交流や外国語学習に関する情報を提供するとともに、本学で学ぶことができるすべての外国語を対象に、その学習を支援する様々な企画・運営を行っている。外国語の学習方法についての相談、語学検定試験の情報提供、海外留学のサポートなど、専任教員や学生TA（ティーチング・アシスタント）、専門スタッフが一人ひとりの状況にあわせてサポートしている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

変化する社会に対応するために、進路・就職支援、資格取得支援等、様々な支援体制を整備している。

キャリアサポートセンター

キャリアサポートセンターは、学生の就職に関する希望の実現を目指して、就職活動をサポートする組織である。センターでは専門スタッフが常駐し、就職に関するさまざまな質問や相談を受け付け、面接指導やエントリーシートの添削、インターンシップ参加の指導、就職活動時における企業選定等、多岐にわたるキャリア支援を行っている。また、250社を超える企業を招き、本学主催の合同企業説明会を複数会場で開催している。

教職支援センター

教職支援センターは、「教員への憧れ」をもって入学した学生が、資質を十分に伸ばし、教員になるため、教員免許状取得および教員採用試験合格に向けた支援を行っている。教員免許状に必要な単位を取得するために、教育実習・介護などの体験のサポートをしています。また、小・中学校への学習支援ボランティアの窓口として学生が自主的に学ぶ場を提供している。

教職特別指導の「教育相談室」では、教員経験のある教育相談職員が、教員採用試験に向けて、相談にのったり、面接指導をしたり、きめ細かな支援をしています。学生同士が仲間とともに語り合い、学び合う場にもなっている。

幼児教育支援センター

幼児教育支援センターは、保育者を目指す学生が、資質を十分に伸ばし、将来、保育士・幼稚園教諭として活躍するために、教員及び保育士養成プログラムの企画・運営・支援を行っている。教員免許状・保育士資格取得の情報、教員・保育士等の採用試験の情報や試験対策の情報を収集・提供し、対象学部学科と連携しながら、総合的な支援を行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

全ての学生が心身の健康を保持し、安全で快適な環境下においてあらゆる活動に専念できるよう、生活・健康相談、カウンセリング等のサポート体制を整備している。

カウンセリングルーム（学生相談室）

カウンセラー（臨床心理士）が常駐し、学生の様々な悩みに対するカウンセリングを受けることができる。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページにおいて公表

<https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/>